

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームうしたに将優館は あなたという『人』を尊重し あなたの『想い』を大切に あなたと『地域』の架け橋なり あなたに『安心』を届けます	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で決めた理念を心において、日々の介護業務に取り組みたいと思っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し浸透を図るとともに、行事開催日を中心とした地域に対する働きかけで理念を実行に移せるよう努めていく。	○ 新しい理念を掲示し家族に理解していただけるように努めたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に加入していることにより、毎月の班長会に職員が交代で参加し、交流している。入居者の方々も周辺の地区で生まれ育った方が多いため、ご家族や友人を中心とする地域の方々にとって立ち寄りやすい環境・雰囲気を作れるよう努めている。また、利用者の友人・知人に立ち寄りいただくように声をかけている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の入居者全員が自治会に加入し、第14班として地域行事に参加している。	自治会主催の敬老会、餅つき、夏祭りに地域住民の一人として参加している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	餅つき大会の設営や準備に職員が積極的に参加した。	○	H20年12月12月14日の地区の餅つき大会の準備運営、設営に参加 H21年9月26日の敬老会の催しに職員が出向き健康体操を実施予定。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価については運営者・管理者のみならず、職員全体で取り組み、現状を再確認するとともに、よりよいサービスの提供につなげられるよう心掛けている。	○	書類などの整理を職員全員で取り組み、職員の意識の向上が出来ている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に運営推進会議を開催し、地域の自治会、民生児童委員及び利用者の家族へ写真やスライドを作成し、報告している。	○	2ヶ月に1回開催している。今後とも継続して開催し、地域の方々と御家族様とより良いホーム運営に努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1か月に1回の介護相談員訪問を受け入れなど、日頃の取り組みを実際に見て頂くことによって、意見交換を行いサービスの質の向上につながるよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部の研修にも積極的に参加し全職員が理解を深め、必要に応じて支援するための知識を身につけられるよう努めている。		現状では権利擁護に至るまでのケースはないが、今後必要とされる可能性を含め、支援ができるように視野を深めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修などを通して、虐待や拘束に対する理解を深め入居者の人権と身体、及び精神を守れるよう努めている。		外部研修、内部研修にて職員全員で取り組む体制をとっている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、運営規定を説明した上で介護利用契約書、重要事項説明書の書類の内容を説明し、不安や疑問を解消するように努め、理解・同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見交換できる関係づくりを目指している。また、介護相談員訪問の受け入れをしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に行われる担当者会議に加え、面会時などに近況報告をすることにより様々な問題に早期対応できるよう努めている。家族の在宅時間を把握し、電話連絡なども行っている。	○	家族との連絡が密にできるように、連絡先を把握し面会時には近況報告を怠らないようにし、今後も本人を含めコミュニケーションを取っていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に無記名でも投函できる御意見箱を設置し、希望者には居室に[意見交換ノート]を準備している。また、気軽に意見を伝えて頂けるよう、日頃からコミュニケーションを大事にしている。	○	運営推進会議や介護相談員訪問などの機会に自由に意見が出せるような雰囲気作りを行っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回、全員参加で行う①部門会議、②分科会を実施し意見を反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	早出、遅出の勤務を設け、利用者の状況に対応している。	○	ターミナルケアを行っていくこともあり、日勤フリー勤務者をおきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は、開業当初に行った以降は行われていない。離職は結婚等に伴う退職のみである		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修は、職歴を加味して年間計画を立てて参加させて、月1回の法人内勉強会に参加させている。	○	法人研修については、研修レポートを作成させ、必要に応じて法人内勉強会で発表させている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会参加などを通し、勉強会や施設見学の場を持ち、関係作りに努めている。	○	今後も研修などに参加し他の事業所との交流を行い、視野を広げていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な職員間の親睦会の場や、業務カンファレンス等にて職員相互が積極的に自由に意見の交換をしている。		年に数回の職員レクリエーションの場がある。又、職員のストレス発生時は、その都度解決できるように話し合っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修への積極的な参加を促し、職員のスキルアップを目的に取り組んでいる。又、職員の能力に応じた業務(アロマ、調理)を設け、職員一人一人の意識の向上を図っている。		職員の長所を活かした研修や活動を行っている。研修などは受けやすい体制づくりを心掛けている。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込み後、入居までは電話などにより現状の把握をするように努めている。又、入居していただくことが決まった際は、事前に本人と面談し、状況の把握や不安解消に努めている。		入居前や待機などの申し出があった場合は入居前の状況確認を怠らず、本人と十分な話し合いをし、不安の除去に努める。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込み後、入居までは電話などにより現状の把握をするように努めている。又、入居していただくことが決まった際は、事前に家族と面談し、状況の把握や不安解消に努めている。		入居前や待機などの申し出があった場合は入居前の状況確認を怠らず家族と十分な話し合いをし、不安の除去に努める。又、待機者においては、定期的に状況を確認していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居などの相談を受けた場合は、居宅介護支援事業所のケアマネと連携を取りながら対応している。	○	初期の段階で他のサービスが必要と感じた場合は、適切な対応ができる事業所や居宅支援事業所などと相談し対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の前に御家族、又は本人を交えて当施設を見学して頂き、全職員にてご本人の既往歴、生活歴の情報を共有しながら、本人のペースで生活していただけるよう支援している。	○	本人のこれまでの生活環境を把握し、環境に大きな変化がないように努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人一人に目を向け声かけが行えるように、入所前後や若い頃の生活状況をアセスメントし、喜怒哀楽に寄り添える関係を構築するために、共に過ごす時間を大切にしている	○	本人の想いや言葉を大切に受容し、言葉を選んだ会話ができるように努める。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会の時には、利用者様の日頃の生活についてよいことだけに限らず、全般的に報告している。ご家族様も本人のケアに携わっていただけるよう、面会時間は24時間自由とし、時間等の制限はない。今までと変わらない関係を築いていけるよう支援している。	○	家族とのコミュニケーションを大切にし、いつでも家族が支援できるように援助していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・ご家族の思い、双方の意見交換が十分に行えるよう、時には職員が間に入り、本人・ご家族様への説明を行っている。	○	認知症への理解が困難な場合は、職員がサポートし良い家族関係が構築できるように支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	納涼祭等の行事の際には、ご家族様はもちろん、ご友人への参加の声かけ等を行っている。地域の買い物等は本人の馴染みのあるお店を利用している。	○	フラワーフェスタ、納涼祭や誕生会に家族や友人を御招きしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者様同士の席を隣にするなど関係を支援している。認知の状態によりコミュニケーションが取りにくい場合は、職員が間に入り、関わりをもてるように、きっかけ作りを行っている。	○	誕生会のケーキ作りに積極的に関わってもらい、プレゼントの贈呈などを行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された利用者のご家族様が、時折ホームへ遊びに来て下さり、世間話や思い出話をする。できるだけ、気軽に来訪できるようにコミュニケーションをはかっている。	○	当施設で最後を迎えられた御家族へ納涼祭への参加のご案内をしている。その際準備のお手伝い頂いたり、亡くなられたご本人様の思い出を振り返ったりと継続した関係を築いている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様の希望や意向に耳を傾けている。また、季節の変わり目や天候変化による個々の心境の変化など、把握できるよう常に心掛けている。		行事など共同で行う事以外は、本人の思いに添えるよう援助している。今後も、情報収集を行い、思い通りの余生が送れるよう援助していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や、日々のコミュニケーション・アセスメントにおいて情報収集し、個々の日々の暮らしが馴染みの場であるよう努めている。		新しい情報が収集できたときは、全職員で周知できるようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	トータル的に現状を把握できるよう、センター方式を用いて情報収集に努めている。また、身体・生活状況が変化した場合にはカンファレンス等を開き対応している。		心身状態が少しずつ変化していく中、できるだけ本人の残存能力や思いを活かせる工夫をしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や御家族の意見が介護計画へ反映されるよう、定期的に担当者会議を開いたり、面会時には声をかけ、生活の様子や課題について話し合いを行っている。又、職員間でも対象利用者様の情報を収集し、カンファレンスを開き情報の共有化に努めている。	○	現状を把握しながら、個別介護計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	目標設定期間や本人・御家族の状況の変化に応じ、担当職員と御家族等で話し合いの場を設け、新たに利用者様に合った計画を作成するように努めている。	○	面会時の意見交換は当然のことながら、担当者会議を行ったり、現状の変化があった場合はその都度対処している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中と夜間で、個別に生活の様子や状況の変化を経過記録として残している。又、その情報を朝と夜勤者への申し送りで報告し、職員全員が共有できるようにしている。		個別の経過記録表があり、日々の生活の様子や情報を記録している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設クリニックやデイサービスとの連携を図りながら柔軟な対応で入居者や家族に満足して頂ける支援を心掛けている。	○	併設クリニックがある事で、家族の受診希望などがスムーズに行えている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議には必ず民生委員の方の参加を頂き、いつでも相談できる関係づくりがせきている。	○	今後の取り組みとして地域の消防団との合同避難訓練等を計画している
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問リハビリ・訪問歯科・訪問理容店などのサービスを利用するための支援を行っている。	○	インフォーマルサービスの活用ができるように努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に毎回地域包括支援センターの方を招いている。毎回の参加があり地域包括支援センターよりアドバイスを頂いている	○	H21年3月26日に地域包括支援センターからの協力依頼にて「家族介護者交流事業」に取り組んだ
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の健康管理から終末期の対応まで、本人と家族の意思を尊重した上で主治医の指示の下で対応している。また、併設クリニックと密に連携を取っている。	○	本人、家族の意向により、自由に受診できるように援助している他、毎週火曜に併設クリニックの医師と看護師の回診を行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	併設クリニックの看護部門と連携を図るため、相互に勉強会に参加するなど、資質向上に努めている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化やターミナル期へ移行した場合は本人・家族・主治医・看護師・管理栄養士と連携を取り、できる限り希望に添えるように努めている。今後も、当施設としてはターミナルケアに取り組んでいきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入職時に個人情報保護法についての研修を受け、外部講師によるマナー研修に参加させるなどしている。また利用者への言葉かけなどには充分注意し援助に携わっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が思いや希望を訴えやすい雰囲気作りや、利用者の話を常に傾聴し、意志を尊重した支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般において時間配分の取り決めはなく、一人ひとりのペースで生活して頂いている。	食事は全員揃って食べて頂くようにしているが、本人の体調や希望により遅らせるなど対応している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一回移動出張理美容業者に来てもらい、本人の希望に合わせ、カット、パーマ等を行っている。本人行き付けの美容院には家族の協力により行っていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態に配慮し食事前に御絞りをたたんで頂いたり、後片付けの際、食器をお盆に乗せて頂いたり出来る事を協力して頂いてる。	○ 誕生会やおやつ作りで材料をカットしたり、混ぜたり等、出来る力で役割分担しお手伝いをして頂いている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	施設内の自動販売機まで一緒に飲み物を買に行ったり、買い物ドライブの計画などでは希望のものを購入できるよう支援している。	畑で収穫できたスイカや、手作りの干し柿など季節の物を取り入れた食事を提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄習慣を把握した上で、おむつの種類や使用方法を考慮し、排泄介助を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴できる曜日や時間に決まりはなく、利用者様の体調や希望に合わせて入浴を行っている。	○	当日の体調を把握し本人の希望時間に合わせた入浴を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床、臥床時間に決まりはなく、日中も居室、広間畳にて休息する利用者様も居られ利用者様の生活習慣、ペースにて支援している。照明、空調に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴やADLに合わせ、洗濯物たたみや食器洗いなどを楽しんで手伝って頂けるようにしている。又、ベランダから見える家庭菜園では野菜や草花を育て、成長の様子をみることで、収穫作業に参加して頂いたりしている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の許可を得た上で自己管理できる利用者様は管理して頂いている。管理困難な方は金庫にて預かり、必要な時に台帳に記入し管理している。	○	外出レクや買い物レクの際には利用者様の希望する品物をご自分で選び、支払い受け取る一連の流れを実現できるようスタッフは利用者様に合わせたケアを行っている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者様の希望に応じて、一緒にホーム周辺を散歩したり、ベランダに出たりしている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見やショッピングセンターへの買い物、みかん狩りなどできるだけ御家族様にも参加して頂ける企画を作っている。	○	H21年5月フラワーフェスタ(フローランテ) H20年10月みかん狩り実施

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、利用者様が好きな時間に電話を使えるようにしている。又、御自身で手紙を読めない方には代読するなどしている。	○	電話数字が大きく分かりやすい公衆電話を設置。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室が全室個室となっているため、訪問者様には居室にて周りを気にすることなく過ごして頂いたり、談話コーナーや広間の椅子を自由に使い他利用者様を交えて過ごして頂いたりしている。	○	居室と広間に畳スペースを設け、広間から少し離れた所に、畳の談話コーナーを設置。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施し、内容を理解したうえで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	法人として外部研修会へ参加しており、H20年9月24日病院・施設全体勉強会開催
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や居室は開放されており、外、ベランダに出る際は職員付き添いにて出かけている。	○	夜間は防犯対策のため、玄関の施錠を行うが、家族などの連絡により、24時間出入りは自由。日中施錠はせず、居室からのベランダへの出入りもできる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中居室で過ごされる時間の多い利用者様へはこまめに巡視、声掛けを行い、又夜間も定期的に巡視を行い、様子の把握や安全に努めている。	○	認知能力に応じて、過度な見守りにならず、危険と判断されれば援助できるように心掛けていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は利用者様のレベルに応じて、撤去するかどうかを家族や職員カンファレンス等により考慮し、危険であれば安全のために撤去している。		認知能力を把握し家族と話し合いながら、本人の想いを大切にできるように考慮していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎日の申し送り、カンファレンスを行い情報交換等を行っている。リスクを予測したうえでの、利用者様の対応、事故防止対策に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に併設クリニックの医師、看護師を交えた勉強会を行い緊急時に備えており、全員が学習している。また、AEDなどの救命講習を全職員が受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災消防の訓練を年2回定期的に行っており、地元自治会との協力を得て災害時の安否確認訓練などに参加している。洪水マップ等を準備・確認している。	○	地域の災害避難箇所までの道順確認や、緊急避難先である併設クリニックへの順路確認等を行っている
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクに関しては、利用者様の状態の変化など些細な情報を家族に報告し、どのような援助をするか相談し決定している。	○	入居時および認知症状、疾患の進行状況に応じて施設長(主治医)から御家族へ起こり得るリスクについて説明を行っている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定し、体調管理を行っている。特変時には医療連携を取っている併設クリニックに速やかに連絡し、対応を行っている。	○	体調の変化に気付いた職員は、管理者や併設クリニックへ報告している。夜間も緊急体制が取れるように内線電話等にて連携している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量についてはカルテにファイリングしている。処方変更時は併設クリニックより指導をうけ、スタッフの周知徹底を図るために、ミーティングや申し送り簿で伝達している。	○	訪問薬局の薬剤師の指導を受けながら配薬カートを管理して、薬の飲み忘れがないようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為に水分を多く取って頂くよう支援支している。特に入浴後や汗をかいた時などには特に注意している。また、個々にあった排泄管理も行っている。	○	慢性的な便秘の場合は管理栄養士の指導を受けながら、飲食物も考慮している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食前や毎食後には、洗面所にて利用者様一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。	○	協力医療機関による歯科訪問診療を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によって献立を立てている。また食事摂取量を毎食確認し食べた量の把握をおこなっている。		食事摂取量を毎食確認して、管理栄養士と協力して嗜好に合った物や、季節感を出しながら提供している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設クリニックの感染対策の勉強会に参加するなどして、感染症について学び、スタッフ一人一人が感染症の予防の援助に心がけている。	○	インフルエンザワクチンの全職員への接種や施設内に手指自動乾燥機、ハイエスト消毒液を設置している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士に細かく衛生管理についての指導をしてもらい、食中毒予防に努めている。また、調理専門の職員を配置し、台所周り、調理器具の清潔保持を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	正面玄関、下足所の二箇所にインターホンを設置している。駐車場から玄関、廊下、居間、居室に至るまでをバリアフリーとしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂の大きい窓から、外の景色の移り変わりが見れ、バルコニーでは、季節を肌で感じて頂ける。廊下、居間に天窓を設け、自然の光を取り入れている。		アロマオイルを使用し、心身ともにリラックスできるよう香りで工夫している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間の他に談話コーナーとして腰掛けられる畳の場所も設けている。食堂のテーブルだけではなく、畳に座って食事やテレビ鑑賞、談話が楽しめるようにしている		食事時のテーブルを会話の弾む利用者同士にするなど配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外はすべて持ち込みで、馴染みの家具や寝具を使用し日々の生活を送って頂いている。		今までの生活習慣で使用していた物や思い出のある物など、自由に持ち込んで頂いている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者様の身体状況に応じて、換気又は温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設け、建物内部の床は全面バリアフリーとし、車椅子を使用されている利用者様も自由に行動できる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々のADLを考慮し、その方に合った自立支援の提供ができるよう援助している。また、日々の生活が快適になるよう環境作りにも努めている。		個々のADL能力について職員が周知し、情報収集に努め最善の援助の提供ができるようにしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩希望時、館内周辺、ベランダを活用している。畑の草花、野菜を觀賞したり収穫時期を楽しみにされ収穫を楽しまれる。ベランダにて洗濯物干しを手伝って下さる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 併設クリニックとの連携体制がよく、本人・家族の想いを医療と介護の両面からサポートできている。また、ターミナル期においては、主治医より細やかな家族への説明及び職員への指導などが行われている。看取りについては、できる限り本人・家族の希望に添えるようにコミュニケーションを大事にしている。
- 昨年度より地元自治会への利用者様一人一人の加入が実現できた。それにより利用者様の位置づけ（環境）がグループホームの一人から地域住民の一人となり地域の各行事への参加も今までの『参加させてもらう』から『住民として参加する』に変わり地域との交流に今まで以上のスムーズな流れができた。地域の方々も年々グループホームへの理解、ご協力が深まり、より良い地域との関係ができています。